



平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年11月9日

上場会社名 株式会社ミズホメディー 上場取引所 東
 コード番号 4595 URL <https://www.mizuho-m.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役会長兼社長（氏名） 唐川 文成
 問合せ先責任者（役職名） 取締役経理部長兼総務部担当（氏名） 佐々木 寛（TEL）0942-85-0303
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年12月期第3四半期の業績（平成30年1月1日～平成30年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	4,270	19.8	676	116.9	677	116.7	519	114.2
29年12月期第3四半期	3,565	21.2	311	445.3	312	436.6	242	520.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年12月期第3四半期	54.50		—					
29年12月期第3四半期	25.44		—					

- （注） 1. 当社は、平成29年7月1日付及び平成30年6月1日付でそれぞれ普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	4,486	2,755	61.4
29年12月期	4,377	2,437	55.7

（参考）自己資本 30年12月期第3四半期 2,755百万円 29年12月期 2,437百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	42.00	42.00
30年12月期	—	0.00	—		
30年12月期（予想）				27.00	27.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成30年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
 平成29年12月期の期末配当金につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

3. 平成30年12月期の業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,517	15.9	1,113	30.9	1,116	31.2	853	29.3	89.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成30年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
 業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割後の発行済株式数（自己株式数を除く）により算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年12月期3Q	9,525,600株	29年12月期	9,525,600株
-----------	------------	---------	------------

② 期末自己株式数

30年12月期3Q	946株	29年12月期	672株
-----------	------	---------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年12月期3Q	9,524,736株	29年12月期3Q	9,525,021株
-----------	------------	-----------	------------

(注) 当社は、平成29年7月1日付及び平成30年6月1日付でそれぞれ普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方、米国と中国における通商問題の動向が世界経済に与える影響が懸念されるなど、先行きは不透明な状況にあります。

体外診断用医薬品業界におきましては、インフルエンザウイルスやノロウイルスなどによる感染症の集団発生への対応を背景に、感染症の早期診断に対する国民の意識が高まり、医療への期待は「治療」から「予防」や「ケア」へとシフトしてきております。診療の現場におきましても、患者それぞれの状態に合わせた適切な医療を、効果的かつ効率的に提供する体制を構築する必要があることから、早期診断及び早期治療の重要性の認識は、さらに高まっております。特に感染症分野では、小児・老人医療における感染拡大の防止や院内感染の予防対策など早期治療に有用となる診断技術への期待も大きく、国内外を問わず新たな技術による微生物検査や遺伝子検査が臨床現場へ普及していく段階にあります。また、有効な抗菌薬が効かなくなる薬剤耐性菌への対策が国際的な課題となっており、国内においても平成28年に抗菌薬の使用削減への薬剤耐性対策アクションプランが提言され、医療の効率化とともに投薬の選択の指標となる薬剤耐性菌の検出など、検査の役割はさらに高まっております。このように、体外診断用医薬品関連企業にとっては、医療現場のニーズに応える製品の開発、さらには海外市場を視野に入れた製品開発が求められる状況となっております。

このような環境のなか、当社は、医療現場からの様々なニーズに応えるために、POCTメーカーとして新しい検査技術や新製品の開発を推進するとともに、既存製品の改善や改良にも尽力してまいりました。また、積極的な営業活動により主力製品や新製品の売上拡大に努めるとともに、競争力強化のために生産性の向上にも注力するなど、様々な経営施策を継続的に推進し、企業価値の向上に取り組んでまいりました。

なお、かねてより新たな診断技術として研究開発に取り組んでおりました遺伝子POCT検査につきまして、平成30年2月に国内製造販売承認を取得し、専用装置の届出完了を経て、同年10月、遺伝子解析装置『全自動遺伝子解析装置 Smart Gene』及びマイコプラズマ核酸キット『スマートジーン Myco』の発売開始に至りました。

これらの結果といたしまして、当第3四半期累計期間の売上高は42億70百万円（前年同期比19.8%増）となりました。

当社は、体外診断用医薬品事業の単一セグメントであります。市場分野別の売上高は以下のとおりであります。

病院・開業医分野におきましては、インフルエンザ検査薬は、主に機器試薬システムの機器の累計販売台数の増加に伴い試薬の売上高が伸長しているなか、2017/2018シーズンのインフルエンザの流行は、1月末のピーク時の患者数は過去最多数を更新するなど大きな流行となりました。これに伴い検査薬の需要が急増した影響により、インフルエンザ検査薬全体の売上高は20億57百万円（前年同期比29.0%増）となりました。また、RSV/ヒトメタニューモウイルス検査薬やStrep A（A群β溶血連鎖球菌）をはじめその他感染症項目の検査薬も増収基調を維持したことに加え、前事業年度に発売を開始した眼科用アデノウイルス検査薬や肺炎球菌/レジオネラ検査薬も売上高の増加に寄与しました。これらの結果、病院・開業医分野全体の売上高は38億99百万円（前年同期比24.5%増）となりました。

OTC・その他分野におきましては、妊娠検査薬は、価格競争や他社の新規参入の影響により売上高が伸び悩みました。また、排卵日検査薬は、一般用検査薬への転用の影響により、薬局向け自社ブランド製品の売上高が減少し、OTC・その他分野全体の売上高は3億71百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

利益面につきましては、主に人件費や研究開発費などの販売費及び一般管理費が増加したものの、増収に伴う売上総利益の増加がこれらを上回り、営業利益は6億76百万円（前年同期比116.9%増）、経常利益は6億77百万円（前年同期比116.7%増）、四半期純利益は5億19百万円（前年同期比114.2%増）となりました。

なお、インフルエンザ検査薬は、当社の売上高（通期）の約50%を占める主力製品であり、インフルエンザの流行時期は冬季であることから、売上高及び営業利益が、第1四半期会計期間（1～3月）及び第4四半期会計期間（10～12月）に集中する傾向にあります。このような傾向に対応するため、当社は、非季節性及び夏季流行性の感染症などその他感染症項目の検査薬の拡充に努め、インフルエンザ検査薬への依存度の軽減とともに季節変動の平準化を図っております。

機器試薬システムの試薬の売上高が伸長していることを主因としてインフルエンザ検査薬の売上高が増加しているため、売上高及び営業利益が第1四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向は依然として変わりはないものの、その他感染症項目の検査薬の拡充に伴い、第2四半期会計期間及び第3四半期会計期間の売上高の底上げは着実に進んでおります。その結果、前々事業年度（第40期）まで営業損失を計上していた第2四半期会計期間及び第3四半期会計期間において、前事業年度（第41期）から営業利益を計上しております。

当事業年度（第42期）の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益は、以下のとおりであります。

第42期（平成30年12月期）の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第42期 合計
売上高	2,150	942	1,176	—	4,270
内インフルエンザ検査薬の売上高	1,519	163	374	—	2,057
営業利益	551	27	97	—	676

（ご参考）直近2事業年度の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益又は営業損失

第41期（平成29年12月期）

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第41期 合計
売上高	1,631	897	1,036	2,059	5,624
内インフルエンザ検査薬の売上高	1,093	213	287	1,228	2,822
売上高の四半期百分率	29.0%	16.0%	18.4%	36.6%	100%
営業利益	287	11	12	538	850

第40期（平成28年12月期）

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第40期 合計
売上高	1,464	688	788	2,020	4,961
内インフルエンザ検査薬の売上高	961	138	205	1,120	2,425
売上高の四半期百分率	29.5%	13.9%	15.9%	40.7%	100%
営業利益又は営業損失(△)	189	△48	△83	472	529

（注）インフルエンザ検査薬には、「クイックチェイサー Flu A,B」、「クイックチェイサー Auto Flu A,B」及び富士フイルム株式会社向け機器試薬システムの試薬が含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末に比べ1億8百万円増加し、44億86百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少7億86百万円があったものの、たな卸資産の増加3億77百万円、土地の増加2億82百万円、現金及び預金の増加1億44百万円、有形固定資産のその他に含まれている工具、器具及び備品の増加54百万円があったことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末に比べ2億9百万円減少し、17億30百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加69百万円及び賞与引当金の増加57百万円があったものの、未払法人税等の減少1億8百万円、電子記録債務の減少74百万円、流動負債のその他に含まれている未払費用の減少62百万円及び未払消費税等の減少60百万円並びに長期借入金の減少61百万円があったことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ3億18百万円増加し、27億55百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加3億19百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期の業績予想(通期)につきましては、平成30年8月10日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	265,666	410,636
受取手形及び売掛金	1,726,191	939,400
電子記録債権	377,973	353,927
商品及び製品	383,146	594,226
仕掛品	213,871	293,998
原材料	188,606	274,661
その他	72,462	98,902
貸倒引当金	△1,106	△635
流動資産合計	3,226,811	2,965,118
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	266,357	253,148
土地	466,336	749,151
その他（純額）	206,918	297,435
有形固定資産合計	939,612	1,299,735
無形固定資産	8,169	10,692
投資その他の資産	203,326	210,902
固定資産合計	1,151,108	1,521,330
資産合計	4,377,919	4,486,449

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	271,728	341,496
電子記録債務	186,859	112,600
短期借入金	81,420	81,420
未払法人税等	168,661	60,304
賞与引当金	27,303	84,512
返品調整引当金	2,886	835
その他	423,853	294,523
流動負債合計	1,162,712	975,691
固定負債		
長期借入金	102,910	41,845
退職給付引当金	269,722	275,247
役員退職慰労引当金	405,223	437,881
固定負債合計	777,856	754,974
負債合計	1,940,568	1,730,666
純資産の部		
株主資本		
資本金	464,548	464,548
資本剰余金	274,548	274,548
利益剰余金	1,698,370	2,017,459
自己株式	△537	△1,368
株主資本合計	2,436,929	2,755,187
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	422	595
評価・換算差額等合計	422	595
純資産合計	2,437,351	2,755,782
負債純資産合計	4,377,919	4,486,449

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	3,565,193	4,270,368
売上原価	1,306,864	1,410,835
売上総利益	2,258,329	2,859,532
返品調整引当金戻入額	329	2,051
差引売上総利益	2,258,659	2,861,584
販売費及び一般管理費	1,946,698	2,185,035
営業利益	311,960	676,549
営業外収益		
受取利息及び配当金	12	14
受取手数料	890	896
生命保険配当金	521	562
為替差益	395	215
その他	47	162
営業外収益合計	1,867	1,852
営業外費用		
支払利息	1,206	863
営業外費用合計	1,206	863
経常利益	312,621	677,538
税引前四半期純利益	312,621	677,538
法人税、住民税及び事業税	63,663	156,804
法人税等調整額	6,640	1,621
法人税等合計	70,304	158,425
四半期純利益	242,317	519,112

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、体外診断用医薬品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。